

令和4年度

事業計画書

社会福祉法人 報恩積善会
養護老人ホーム 報恩積善会

令和4年度 事業計画書

養護老人ホームの現状は、措置入所決定が迅速に決まらず、満床になることはありません。ですが当会では、各市町村にも定期的に訪問し顔の見える関係づくりをしながら、何かあれば報恩積善会にと声をかけてもらえるように継続して情報発信、サービスの質の向上に努めてまいります。近隣の施設とも連携をとり、お互いが向上できるよう情報交換、人事交流を実施していきます。

養護老人ホームの責務であります「福祉の最後の砦」として今後も柔軟に役割を担ってまいります。

養護老人ホーム、介護保険施設の一般型特定施設入所者生活介護として、一層のサービスの質の向上に努めて参ります。令和4年度のテーマ「暮らしの継続を一生懸命に」を念頭に令和3年度より進めております、「ユニットケアチーム」の活動を軸に、「個別ケア」を進めて参ります。

その人がその人らしく生活でき、職員が伴走しながら落ち着いた雰囲気でご過ごせる居場所を提供していきます。

特定技能実習生が新しく入職し、施設に新しい風が吹いております。年配の方、若い方、障がいがある方、子育て中の方、外国人の方、どんな方でも柔軟に働くことができる職場を整えていきます。

地域の皆様への公益的な取り組みでは、会食・配食サービス、ほほえみカフェ（認知症カフェ）等、職員一丸で共に取り組み、つしまみんな食堂とも連携し地域の方がいつでも立ち寄れる拠点施設をつくっていきます。ウィズコロナで、できることをできるときに実践していきます。

報恩積善会では、入所者、地域の皆様、関係者、職員がひとつの「和」になれるよう、職員一同力を合わせて切磋琢磨してまいります。

施設長 田淵 由春

法人理念『和』

手を取りあい誰ひとりこぼれることのない大きな輪をつくる大切さのことです。

私たちは地域の一員として互いの手を携えて、誰もが和やかに生活できる社会の実現を目指します。

《施設運営方針》

○地域の中の拠点施設となるべき開かれた施設を目指す

地域の中の福祉拠点として、地域の人たちにも開放し地域福祉の向上を目指します。

○人生の最終コーナーを廻っている人たちのよき伴走者であれ 「してあげる介護」から「寄り添う介護」へ

小さいひとつひとつのことに他人を思いやる優しい心を込めて関わること。

《伴走者の心得》

○利用者の尊厳と尊重

丁寧な対応と同時に、相手を尊重し大切にすることをもちます。

○洞察力

高齢者の「現在」だけを見るのではなく、私たちと同じ澁刺とした「過去」があったことを認識し、相手の心の奥にある真の思いを察する努力をします。

○自分を良く知ること

自分の関わり方、介護の仕方を振り返る謙虚さをもちます。

○介護は相互の人間関係

入所者から教えられ、学びながら仕事を続けていることを認識します。

○人生の総仕上げの支援

入所者が人生の最期を私たちにゆだねていることに感謝する心をもちます。

《行動指針》

①私たちは、社会の一員であることを自覚し地域に貢献する取組を行います

②私たちは、入所者と共に QOL の向上を目指します

③私たちは、常に相手に感謝の言葉を伝えます。

④私たちは、互いを尊重し合いチームワークを大切にします

⑤私たちは、目標をもって仕事にチャレンジします

⑥私たちは、向上心をもち常に成長し続けます

【運営ビジョン】 「自分たちが入所したい施設を創る」

【テーマ】 「暮らしの継続を一生懸命に」

【施設目標】 ①入所者優先 ②個別ケアの実践 ③多職種連携で稼働率98%

【職員行動基準】

職員は行動指針と共に行動基準に沿った考えのもと、目標達成に向けて職務を行います。

1. 根拠ある安全性 ⇒ 2. 謙虚さ ⇒ 3. 積極性 ⇒ 4. 効率性 ⇒ 5. 個性

各部署目標と行動計画

【介護】

「相手の身になり優しい気持ちで思いやりのある行動をとる」

○入所者、職員関係なく、随所に優しい心配りをし、笑顔で親切に接する

「出勤の際、担当入所者とコミュニケーションを図る」

○出勤の際、モニタリング担当入所者と必ずコミュニケーションをとる。

【看護】

「多角的判断により異常の早期発見ができる」

○多職種との連携強化に努める【なんとなく元気がない】などの細かな気づき情報を毎日のミーティングを利用し積極的に提供する体制をつくる。

○症状、バイタルサイン、検査データなどの情報による一面的判断ではなく、内服状況、既往、普段の生活習慣、精神面などの情報を踏まえ、多角的に判断できる力を養う。

○定期的なナースミーティングを計画し症状別看護対応や疾患についての勉強会を行う。以上の対応により昨年同様の入院率の維持に努める。

【調理】

「食事で入所者の心身の健康を支える」

○嗜好調査や会話から入居者の希望を聞き、献立に反映する。

○季節感のある献立、おやつを提供。食事を楽しんでもらえるように努める。

○おやつ作りなどを一緒にするなどして、ふれあう機会を持つようにする。(2回/1月)

○栄養アセスメントを実施し、食事面でのケアを図る。

「食品ロスの減少に努める」

○食品の発注量を定期的に見直す(月1回ミーティング)

○献立の見直し(月1ミーティング)

【事務所】

「つながり作り」

- 関係機関等と定期的に連絡をとり、待機・空き状況についての情報共有だけでなく入所相談につながるよう普段か顔の見える関係づくりに努める
- 市内の養護老人ホームの連携を深め、施設間の移動や他施設への紹介を含めてセーフティーネットとして養護全体での窓口となるよう努める
- 京山学区を中心に出席講座やケア会議等に参加し、地域との交流を図ると共に回覧板へチラシを入れるなど広報活動を行う

「相手に寄り添う丁寧な対応」

- 誰に対しても「ありがとう」の言葉を伝えます
- アンガーマネジメントや傾聴のスキル向上に努めます
- できることを考え提案や実行につなげます

【調査研修関係】

- 1 会議及び研修会へ積極的に参加し、職員の資質と見識を高め共有し入所者ケアの向上に努める。また自主的な外部研修参加に対しては、各種助成を行い職員のスキル向上を支援する。参加に際してはオンラインも活用し施設内外、他県との交流ができるように支援を行う。
- 2 福祉施設研修大会においては、他施設の職員と交流を図り、現場における実践研究発表を通じて学び、積極的に取り入れ実践しサービスの質の向上を行う。また日々の取り組みを研修大会にて発表を行う。
- 3 参考図書は積極的に購入し、福祉に対する認識を養い自己の研鑽に励む。なお、参考図書は事務所カウンターの所定場所にて自由に閲覧できるようにする。
- 4 施設内での定期的な会議を実施し、報告・連絡・相談を密にすると共に、会議は学習の場として位置付け、職員の資質の向上に努める。

①事業計画発表会

新年度の事業計画策定に当たり、職員参加のもと意見を集約し新しい年度に向けての共有を行う会議とする。

②職場研修

年間スケジュールのもと職場内研修を実施し、職員のスキルアップと入所者ケアの向上を目指す場とする。またオンライン研修を毎月実施し、効率的に必要な知識を得る機会を設ける。

職場外研修は職種や役職毎にスキルアップなどを図るよう積極的に参加できるような体制を整える。また公募等にて主体的に参加ができるようにする。

③職員会議

各研修会の報告や施設内研修を兼ねた会議とし定期的に開催する。

④主任者会議

定期的に各部署での課題を持ち寄り検討する。

⑤臨時会議

早期の対応が必要な場合に、多職種で集まり対応を検討する。

⑥カンファレンス・生活支援会議

生活支援計画、ケアプランの作成及び見直しを多職種にて検討する。

【ケア関係】

①食事について、旬や地域の食材を使った郷土食、また入所者の希望を取り入れた食事作りを考え、入所者の日常的な体調や身体状況を把握し、ADL に合わせた食事ができるような栄養管理に努める。また楽しく、おいしく、落ち着いて食事ができる環境づくりを行う。

②看護職員による日常の健康度のチェック、服薬管理、岡山済生会総合病院嘱託医による週 1 回の往診及び昭和町健康管理センターによる年 1 回の健康診断の実施、協力医療機関との連携、必要に応じて近隣医院への往診依頼等を行い、健康管理に努める。看護職員による毎月の医療講座実施により看護介護職員の知識向上を図り、よりよいケアの提供に努める。

③入所者と共に室内外の清掃及び整頓、衣類寝具等の清潔保持を通じ、生き生きと生活できる基盤づくりに努める。

④入所者が健康度や心身機能に応じて参加できるクラブ活動、施設外活動、各種行事の他、楽しみややりがいを得られるアクティビティを入所者と共に企画・検討し ADL 向上と QOL の充実を図る。また入所者の社会参加への働きかけや地域活動を共に実践し、やりがいを得られるよう支援する。

⑤入所者個々とかかわりを深め、互いに感謝しあえる関係づくりを行う共に QOL の向上を目指す。また常に入所者の視点で考え他職種で連携してより良いケアを実践する。

⑥入所者が最後まで自分らしく安心して生活できるよう、定期的に多職種で本人や家族の声を聞き取り思いに沿った看取りケアを実践する（ACP の実践）

【対地域、対家庭】

- 1 岡山市と生活支援短期入所事業の委託契約を締結すると共に、短期入所自主事業にて地域の高齢者を中心に支援が必要な方の受け入れと共に、災害時の福祉避難所としても積極的に受け入れを行う。また地域の高齢者に対し配食、会食サービスを実施し地域福祉の向上に努める。
- 2 各学校の実習依頼については、実習生の学習の場としてだけでなく、職員の学習の場として受け入れを行う。また障害者の就労訓練実習、支援を必要とする子どもの実習、中間的就労支援等の社会ニーズに対しても積極的に受け入れを実施する。職員は、地域に出向き専門的知識を地域の資源として伝えることに努める。
- 3 施設内行事には地域の高齢者や住民も招待し地域交流を深めると共に、学生等の参加も通じてボランティアの育成を推進していく。また地域行事へは積極的に参加し、地域の一員として主体的に地域住民との交流に努める。
- 4 入所者、家族、地域住民やボランティア等誰もが訪問しやすい明るく清潔感のある施設環境を作る。また、SNS やホームページにて施設の取り組み等の情報発信に努め、年 1 回機関紙「ほうせき」や他職種で地域への情報発信を行う「HOUSEKI NEWS LEITTER」を発行する。
- 5 年間計画をもとに地域と協働し公益的な取り組みを実施する。また職員全員で積極的に取り組める体制づくりと共に地域ニーズに応じて柔軟に実践する。
 - ・給食サービス（配食・会食）

- ・ふれあい講座（地域サロン活動）
- ・ほほえみカフェ（認知症・地域交流カフェ）
- ・認知症サポーター養成講座
- ・地域の福祉資源としての食堂及びふれあいホール等の貸し出し
- ・福祉車両の貸し出し
- ・幼稚園、保育園及び小中学生に対する福祉体験や施設見学
- ・高齢者や障害者等に対する実習受入れと雇用機会の確保
- ・つしまみんな食堂（協働）
- ・積善会祭
- ・地域交流会 等

6 分野を問わず企業、各種団体や他法人とも情報交換や交流を図り連携しながら地域ニーズへ対応する。

7 町内会等地域団体と連携し、地域防災活動に積極的に取り組むと共に福祉避難所としての支援だけでなく要配慮者の避難計画等を実践する。また施設の BCP も地域全体として理解して頂けるよう情報発信や共有する機会を設け連携を深める。

【月間行事】

（1） 施設内活動

1、給食相談

入所者と職員が個別に食事について意見交換し、QOL 向上に向けての食事作りとする。

2、常会

毎月入所者と職員が一同に会し、お互いに意見を交換し快適に生活ができるよう話し合いや報告を行なう。

3、クラブ活動・文化活動

健康度や心身機能に応じて参加できる活動を考え、QOL 向上及び残存能力の維持向上に努める。また、施設運営方針である「地域に開かれた施設」として地域住民の参加を呼びかけ入所者や職員との交流、地域の居場所づくりとなるよう活動を行う。

4、誕生会

入所者、職員、家族の他、地域の会食利用者も招待し食事を食べながら誕生者を祝福する。

5、売店

週 1 回売店を開き、外出ができない入所者も買物を楽しんでもらえる場とする。

6、喫茶

ボランティアの協力のもと、入所者の楽しみの場としてまたボランティアや入所者同士の交流を深める場とする。

7、おやつ作り

入所者と調理職員との関わりを深められるよう実施する。

8、移動図書館

月 1 回、市立中央図書館の移動図書が来会し利用してもらおう。また地域の人にも利用してもらえるよう広報を行う。

9、避難訓練

非常災害に備え年 2 回全体での消防避難訓練を実施し、入居者の安全確保に努める。また地震、土砂災害に対しても年 1 回の避難訓練を実施する。岡山市と福祉避難所の連携を図ると共に、地域の自主防災会等各団体との連携を密にし、情報交換や共同での防災訓練などを行う。

(2) 施設外活動

入所者の要望にそった計画を立て、多くの入所者が参加できる活動を実施する。

- ① 花見ドライブ (3 月下旬～4 月上旬)
- ② 蓮見学 (7 月中旬)
- ③ 紅葉見学 (11 月中旬)
- ④ イルミネーション見学 (12 月中旬)
- ⑤ 初詣 (1 月中旬)
- ⑥ 外出支援 (入所者個々の要望に応じて実施)

【施設年間行事】

4月	ひな祭り お花見 花見ドライブ	桃の節句を祝ってお茶会 桜の下での祝宴 市内をドライブ
5月		
6月	大掃除	室内外の大掃除の実施
7月	地域交流会 摩利支天祭り 蓮見学ドライブ	地域住民とボランティアを招いての交流会 摩利支天王様の夏祭り 高松城跡蓮見学
8月	七夕祭り 盂蘭盆 納涼の夕べ	誕生会を兼ねて七夕祭り 盆の法要にて創設者の墓参り 地域住民を交えての盆踊り大会
9月	敬老の日 創立記念日	敬老の日の祝宴 創設者並びに関係者の慰霊祭と祝宴
10月	運動会 秋の健診 ほうせき★まつり	地域の高齢者、保育園児を招待し合同運動会 秋の健康診断の実施 入居者の為の秋祭りイベント
11月	積善会祭	地域住民の交流を目的とした秋祭り
12月	忘年会・クリスマス会 餅つき すす払い	1年間の健康を祝す忘年会とクリスマス会 1年の締めくくりとしての餅つき 室内外の大掃除
1月	新年会 初釜	新年の祝賀会 茶道クラブによる年始めの茶会
2月	節分会	年男・年女が豆をまき、1年の平安を祈る。
3月	彼岸会 健康診断	創設者と報恩積善会供養塔の墓参り 入居者全員の健康診断の実施（昭和町健康管理センター）

【社会福祉法人報恩積善会 SDGs への取り組み】

社会福祉法人報恩積善会は地域とともに、事業活動を通じて持続可能な社会の実現を目指すべく取り組みを進めています。法人理念の「手を取りあい誰ひとりこぼれることのない大きな輪をつくる大切さ」、SDGs が目指す「誰一人取り残さない」目標に向けて、今年度も一つ一つ取り組みを実践します。

SDGs 目標	
目標 4 : 質の高い教育をみんなに	実習生の受け入れや幼保・小中学生等への講義等や域福祉教育を促進し、福祉に関わりを持つ機会を作り人を育てます。
目標 8 : 働きがいも経済成長も	職員 1 人 1 人がやりがいをもてる職場を実現します。また高齢者雇用や職業訓練等の受け入れを行い雇用促進と経済成長に寄与します。
目標 11 : 住み続けられるまちづくりを	誰もが安心して過ごせる地域を目指し、地域をつなぐ取り組みを地域の一員として住民と協働し実践します。
目標 12 : つくる責任つかう責任	施設内の食品ロスを減少させます。また地域のフードバンク活動と連携し協働で食品ロス削減に取り組みます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための 17 の目標

